

【2025年度 森づくり団体助成一覧】

●高額助成3団体	活動地域	活動内容
一般財団法人北海道札幌南高等学校林	札幌市	<p>南高等学校林は、これまで100年余に渡り同窓会を母体とする先達が、時代の要請に呼応しながら山林運営をしてきた。私たちは、先人の営為の意志を引き継ぎ、これからの100年を見据えて、この土地本来の原生の森を復元することを目標に環境保全型の森づくりに取り組んでいる。今回は、以下の活動を通して、林業家と市民が協働して森の健全化を加速することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの森づくりの取り組みの効果をモニタリングし今後の指標とするために、専門家の指導を受けながら生態系の実地調査を実施し記録する。 2. 「森の健康診断」の一端ともなる樹木の観察測定（枝のつき具合、胸高直径、樹高、単位面積当たりの密度など）についてプロの実地講習をもとに自分たちで工夫しながら実施し記録する。 3. 間伐から数年を経過する林地の環境整備について、従来の森林作業道のレーキ掛け、伐採木のつる切りに加えて、数十年後の森で中心となるべき幼木の周りに生える笹など妨害植物を刈るなどの作業（刈り出し）についてプロに教わりながら適宜実施する。 4. 以上の調査結果とこれまでの森づくりの工程等について札幌市内パブリックスペースにて一般市民に向けて、成果報告会を開催する。
あさひかわサケの会	旭川市	<p>石狩川の生態調査を通して、河川環境の貧化（水生昆虫の減・河川敷の生物種の減）を肌で感じてきた。こうした環境改善の施策について、毎月実施している運営会議（世話人会）や当会の総会にあたる「会員会議」での討議を経て、「河川環境保全には『里山の自然環境の保全』が欠かせない」との決議に至り、2021年より「旭川森林ボランティア倶楽部」（北海道から借用している道有林での『みらいの森づくり』や民有林の保全活動を実施）との『協働』を開始した。</p> <p>当会の森林整備の用具を充実させ、効率的に「森林整備」を行っていきたい。旭川森林ボランティア倶楽部との協働を発展させ、より広い森林整備が担えるようにして参りたい。現在年間10日ほどの作業であるが、協働体制を拡大させ、より多くのメンバー（人員）の結集を企画していくことで、広い面積の「森林整備」が行えると考えます。人員増によりメンバー一人一人の負担を軽減し、持続的な森林整備活動が可能になると思います。</p>
恵庭ふるさと100年の森	恵庭市	<p>過去様々な活動を行ってきたが、森林整備の維持には多くの費用が掛かり、今後も多くの子どもたちの活動を支えていくためには継続した整備が必要。かつ、多くの子どもたちが体験に参加するために体験料の見直し（軽減）を行うことで、持続可能な目標を達成するために体験料を必要としない、自然活動を実施したい。</p> <p>日頃整備は、幼稚園の保護者や無料開放時に参加可能な大人たちと協力を行っているが、より安全な整備が行えるようなヘルメットの購入など資機材を用意していきたい。</p> <p>また、森を傷つけずに間伐を進めていくための馬搬の促進も行っていきたい。</p>

●小額助成20団体	活動地域	活動内容
旭山自然調査隊	札幌市	<p>身近に残る自然を近隣の子供達と守る活動 生物多様性や希少種を守るため在来の樹林や集水域の環境を保全し繁殖地を守る</p>

手稲さと川探検隊	札幌市	手稲山を拠点に親子で身近な自然が周囲に豊かにあることを感じ、楽しめるようなプログラムの企画実施を行い、単に知識だけではなく、森や川、生きものと人とのつながりを五感を通して感じることができるよう活動をめざしています。
盤渓癒しの里山づくりプロジェクト委員会	札幌市	当委員会の活動の拠点は、札幌市中央区盤渓の約6.3haの山林で、所有者は知的障がい者の支援活動をしている、社会福祉法人札幌この実会です。この森は障がい者の日常活動や地域住民との触れあうことのできる森づくりを目指しています。このため、散策路や車いす用木道、休憩小屋、バイオマストイレなど森林利用施設の設置維持などにより高齢者も利用しやすい森づくりです。この森は、クルミ・クワ・ヤマブドウ・コクワなどの実のなる木、シラカンバ・ハンノキなどの広葉樹、カラマツ・トドマツの針葉樹など多様な樹種で構成されています。下層植生発生を促す主としてササ刈作業により豊かな森づくりもしています。巣箱の設置や実のなる木の植樹、クマゲラの営巣樹木の保護、小河川に生息するニホンザルガニ、エゾアカガエル、エゾサンショウオ等の野生生物の保護にも努めています。又、周囲500mほどの熊柵を設置してクマ被害の防止・樹木ネットの設置でシカの被害防止にもつとめています。活動から13年目になり今後も障がい者と森林ボランティアなどにより、資源の保続のための補植や各施設の維持管理、毎年発生する風倒木の処理、熊柵・散策路の改良と維持管理、ニセアカシア・オオハンゴンソ・ササの駆除、イタヤカエデ・シラカンバの樹液や樹皮の活用と風倒木、枯損木による薪生産やバイオマス等の生産により継続的な活動をするための資金確保を図りながら、貴重な森林を保全し、地域の環境保護に寄与できればと考えています。
ようてい木育倶楽部	札幌市	森林や木を通じて豊かな心を育んでもうらうことが持続可能な社会の形成に繋がると考え、より多くの人々に森林に関りを持ってもらえるような仕掛けや体制を構築したい。 (1) 木育の普及及び推進 (2) 木育の全国的ネットワークの構築 (3) 木育指導者の育成 (4) 所有森林の整備と森林の活用
積丹グリーン	積丹町	積丹グリーンは代表の森田が林業をライフワークにしたいと志し、設立したメンバー4名の任意団体です。代表森田信道、松田義博、運野淳、森田千明の4名が正規メンバーとなっています。2021年より林野庁の「森林・山村多面的機能発揮交付金」を資金として積丹町野塚の森林（21h）にて保全活動、薪、ホダギ、クラフトなどの製造のほか、月1回程度のイベントを実施しています。活動の目的は持続可能な林業事業と誰もが気軽に訪問できる安全で魅力的な山づくりです。
里見緑地を守る会・どんぐり	北広島市	北広島団地の南西端に位置する里見町5～7丁目地先の里見緑地（約10ha）の環境整備・保全（生物多様性保全活動を含む）と北広島市が推進する「さんぽまち北広島団地」の地域活性化に寄与すること
森のようちえん“チュプの丘”	岩見沢市	動を重ねている。 子どもたちの成長と共に活動内容は変化しているが、変わらぬ思いの元来年度からいつでも自然と触れ合え仲間と過ごせる環境づくりを基盤に共育の場、学びの場、親子共に生きる力を育む場にしていきたい。
沼田どってこどってこ	沼田町	地域の山林において、ふと訪れたいくなるような安全で美しい森を目指して、道づくり、間伐、下草刈り等を行うとともに、森林体験活動を実施することで、人と自然のつながりを増やすことを目的としております。近年の気候変動への対応として、Co2吸収増大や、水源涵養、生物多様性の維持などの多面的機能を意識した森づくりの方法を検証し、イベントやSNSで情報発信することも活動の一貫として行う予定です。
一般社団法人森の輪	旭川市	私たちは、森林教育や木工教室、自然体験活動を通じて、子どもから大人まで幅広い年代の人々に、私たちの生活が木や森とともにあ

		<p>ることを伝え、自然との共生を促進します。木育活動に参加することで、参加者は森林の健康や生態系の重要性を学び、持続可能な地域や環境とはなにかを考えるきっかけが生まれます。私たちは、木育を通じて、より緑豊かな未来を目指し、地域社会における自然保護と環境教育の推進に努めています。森と木の恵みを守り、次世代に引き継ぐために、私たちと一緒に木育の輪を広げましょう。</p>
かしの森とこどもの会	浦河町	<p>活動概要拠点である「かしの森」の整備の推進と森林保全、地域の活性化、そして、得に子どもの心身の健康増進を図ることを目的として一部の森の所有法人の幼稚園の職員と、その他の森の所有者が近隣の方々と会を結成し活動しています。地域の人や子ども達が自由に自然体験できる場所（森）づくりを行っています。子ども達や地域の人たちに、森林保護、植樹、育樹などの大切さを伝えながら、自由に木や自然に触れ合うことのできる居場所づくりを地域の人たちや子どもたちを巻き込み「みんなで作っていく森」を目指しています。</p>
魁！自然塾	千歳市	<p>木育や環境教育を通して、人をつなぎ、地域をつなぎ、人が育ちあえる活動を実施し、地域で育った子どもが、大人になり、地域で活躍し、またその子どもが、地域で育つ世代の循環（ジェネレーションサイクル）の実現を目指します</p>
北海道文教大学自然体験活動ボランティアサークルつむぎ	恵庭市	<p>【背景】 自然体験活動や幼児児童向けイベントへ学生ボランティアとして参加し、子どもたちと関わる中で「大学で学ぶこと以外に、たくさんの学びや発見がある」ことに気づき、有志3人で2022年に発足。現在8名</p> <p>【目的】 ①自分たちの将来（保育士、教員等）を見据え、もっと子どもたちと関わる機会を増やし、現場教育を学ぶ。活動の企画をする。 ②屋外、自然の中で遊ぶ喜びや発見、学びを子どもたちと共有し、一緒に楽しむ</p>
特定非営利活動法人 森のこころね	厚真町	<p>当団体会員が個人保有する約0.3haの森林を会員やその子供たちの活動場所としたいが、危険木や支障木が数多く存在するため林内の3割ほどしか利用されていない。そこで今後安心して森の全域を利用していくために、会員自らが森の現状を把握し、森づくりのノウハウを正しく学び、身につけて実践していけるようにしたい。また、整備等で出た木材や枝条はクラフトの材料やホダ木、薪などにして有効に活用したい</p>
お母ちゃんラボ	室蘭市	<p>お母ちゃんラボの事業のひとつである子育て支援事業では、地域の子育てサークル「あそばく」として登別市のふおれすと鉾山を拠点に月に一度、散策や川遊びなど親子の自然体験活動を実施しています。子どもだけではなく大人も一緒に楽しめる、そんなつながれる場所を創りたくて活動を続けています。そんな中、昨今の不登校の激増や子育てのしづらさを体験し問題意識を持っている母親、父親の気持ちを多く聞くようになりました。そんな子育て中の親たちが今一番必要としているのが「つながる場」であることが分かりました。そんな場所を仲間と一から作ってみたいと思い今回の事業を立ち上げた次第です。</p> <p>本事業の目的は、かつて市の公設グラウンドであった1ヘクタールの荒れ地を再生し、「命溢れる暮らしの場」として、将来的には次のような役割を果たすことを目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.学校に通うことが難しい子どもたちの支援 2.病児保育の提供 3.人々の交流とつながりの場 4.エコビレッジの創設 5.動物とのふれあいを通した命を学ぶ場
地球岬街道夢の森づくりの会	室蘭市	<p>室蘭の誇る景勝地、地球岬の観光道路沿いの一角に室蘭市のごみ処分場があった。このごみ処分場は昭和35年から昭和52年までの17年間室蘭市民の生活のごみを処分していた。用途廃止後は市に</p>

		<p>において公園緑地化の考えも有ったが最終的には処分場全体に覆土し事業は終了した。その後、30余年経過する中で、処分場跡地は雑草が生い茂る荒れ地となり環境と景観を損ね、この状態に市民は憂いていた。</p> <p>そこで、室蘭市と市民有志、関係者で対応策の協議を進める中で、市民協働で環境整備をすることとなり、平成21年9月にこのごみ処分場の近隣10町会と自然環境に関心のある団体の5団体で「地球岬街道夢の森づくりの会」が発足した。</p> <p>森づくりはごみ処分場の跡地の一部1万㎡を樹木の植樹場所と憩いの場となる展望広場、駐車場の設備を織り込んだ整備計画を作成した。</p> <p>(実現したい理想像)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎森づくりにより自然環境の大切さが発信できる。 ◎自然遺産的な地球岬とその街道の景観向上に資する。 ◎里山として憩いと安らぎ、そして子供の学習の場となる。 ◎行政と町会、団体、市民との連携は市民協働の向上になる。
<p>特定非営利活動法人霧多布湿原ナショナルトラスト</p>	<p>浜中町</p>	<p>霧多布湿原は、北海道東部の浜中町に位置する面積約3100ヘクタールの自然豊かな場所である。特に夏はエゾカンゾウやクロユリなどの高山植物が湿原を彩り、別名「花の湿原」とも呼ばれている。また多くの野鳥の生息地にもなっており、四93年にラムサール条約に登録された。</p> <p>霧多布湿原のおよそ3分のは約1200ヘクタール)は民有地であり、開発されやすい状況であったことから、霧多布湿原ナショナルトラストは、民有地を買い取り保全する「ナショナルトラスト運動」に取り組んでいる。2023年9月までに霧多布湿原と浜中町の湿原景観協定地を含めて158ヘクタールを保全することができた。また、この豊かな自然を未来の子どもたちへ引き継いでいくため、霧多布湿原の「ファン」を増やす活動に力を入れている。「湿原の開発反対」ではなく「湿原を残すことに賛成」する人を増やしていくため、湿原の魅力にふれるエコツアーや自然体験プログラムを提供している。観光客だけでなく、この景観が「当たり前」のものと感じている地域住民に、湿原の価値を認識してもらうため、湿原の働きや動植物について調査・研究を行っている。さらに森・湿原・海がつながっている浜中町の希少な環境は森林の存在が欠かせないことから、北海道発祥の「木育」という概念を推進していきたいと考える。</p> <p>の「木育」の普及に関しては、協賛企業との共同作業が主となる植樹活動や団体所有林の整備活動、幼少期から木にふれ親子で木を身近に感じてもらえるような玩具の展示、本材や精油など木の活用紹介を目的としたエコツアー、木育マイスター(当団体には1名が在籍)との交流事業など様々な角度から活動を行うことが必要である。</p>
<p>NPO法人トラストサルン釧路</p>	<p>釧路市</p>	<p>今から36年前に釧路湿原が国立公園に指定された翌年に当会は結成されました。開発の恐れがあった湿原と湿原周辺の丘陵地を重視し、自然保護地づくりを始めました。市民の皆様の寄付金で土地の買い取りや寄贈によって自然保護地を増やし、現在は669ヘクタールを保護地としています。また荒廃した丘陵地では、緑化活動を行い湿原の水源林としての再生を目指しています。釧路湿原は広大なため、当会の活動を通じて市民や行政の皆様が釧路湿原や周辺丘陵地の自然環境、動植物に優しい土地利用、保全の意識を持つことを目標に活動しています</p>
<p>帯広の森サポーターの会</p>	<p>帯広市</p>	<p>"植樹後放置され殆ど人の手が入らなかった人工林において、下記の活動を実施している。</p> <p>1 下草刈りや枝打ち、除間伐等の育樹作業、外来種の草木の除去 ⇒第8ブロックでは当面の育樹作業は終了した。20年以上放置された第7ブロックでは下草刈りや枝打ちが進み、林内に陽光が届き始め変化をもたらしている。</p> <p>2 散策路整備やベンチ・看板設置等、市民が安全に利用できる環境整備</p>

		<p>⇒第8ブロックで 2023 年 10 月に一般市民を対象として林内を開放するイベントを初めて実施し、数組の訪問があった。2024 年は 6 月に実施、10 月にも実施予定としている。</p> <p>十勝総合振興局森林室作成の『十勝管内森林散策コースのご案内』の 10 選に選ばれた。</p> <p>3 未利用資源の有効活用(間伐材の利活用拡大、クラフト利用の啓発等)</p> <p>⇒ミズナラ間伐材で椎茸ホダギ作り、クルミ・シラカバ等の間伐材で会員と市民を対象としたクラフト体験を継続的に実施している。</p> <p>4 会員と市民を対象とした各種研修会を開催し、郷土の森を育てる仲間づくりと次世代の人材育成推進</p> <p>⇒会員のスキルアップに繋がり、研修会の都度新たな入会者があった。"</p>
どんぐりとやまねこ	帯広市	<p>次の世代を担う子どもたちがのびのびと育っていくことを願って活動する。豊かな心を育てるために、絵本や昔話に触れる機会を作り、失われて来つつある自然を体験する場を設ける。以上の活動の大前提として、自然環境を守ること、平和な世界を築くことに取り組む。</p>
森のおさんぽ研究会	帯広市	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもたちが自然に親しむためには幼児期から自然にふれあう体験が重要であり、保護者とともに自然に親しむ機会をつくっていく必要がある。 ・そのために幼児親子向けに自然体験の機会や方法について、普及啓発していくことを目的とし、森のおさんぽの実践や普及、講習などを実施していく。 ・当面は、会員がそれぞれの地域や所属機関等で行っている幼児向けの活動を互いに交流、研鑽しつつ、新たな機会による普及活動の展開などを目指す。 ・将来的には、乳幼児が森のおさんぽに出かける際に役立つ「森のおさんぽハンドブック」の制作を予定